

平成28年度 学校評価計画表

教育目標		チャレンジ精神に満ち、どんな困難にもくじけず、正々堂々と生きる人間を「ゆっくり、じっくり、たっぷり」育てる学校づくりを進める。						総合評価	
運営方針		<p>○目指す学校像：教職員の英知を結集し、確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身や社会性をバランス良く身に付けた、将来、社会に貢献できる「生きる力」をもった人材を育成する学校。</p> <p>○目指す教員像：意欲と慈愛に満ち、確かな力量を持ち、創意工夫する教師。バランス感覚に優れ、物事を大きく捉える教師。</p> <p>○目指す生徒像：創造力豊かに生産活動に取り組み、最後まであきらめず、地道に実践する生徒。他者を思いやり、協働できる生徒。</p>							
27年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標				
近年多様化する生徒個々に応じる指導を重点に置き、特に不登校の生徒や特別支援を要する生徒への指導をしてきた。学校生活において、確実に基礎学力をつけ、基礎的な生活習慣の確立や、コミュニケーション能力を育成し進路保障を確実なものにしていくことを、課題の柱に生徒の指導に当たって行く。		発達段階に応じて分かる授業を目指し、基礎的、基本的指導及び必要な支援を行い特別支援教育の充実を図る。また、社会で自立して生きていく力を身につけられるよう、キャリア教育の充実を図る。			・中・高の関連を踏まえ、つまずきを発見し、その対策に努める。 ・わかる授業を目指して、基礎的・基本的事項に重点を置き、指導内容を精選する。 ・体験的学習を重視し、つくる喜びを味わい、正しい勤労観を培い、社会での自己実現を図る態度を育てる。			B	
		基本的な生活習慣や人間としてもつべき規範意識を身につけ、主体的に判断して行動できる力を育てる。			・自ら基本的な生活習慣を身に付け、集団や社会のルールをしっかりと守ることができる人間を育てる。 ・教職員と生徒との人間的な触れ合いの場を広め、ひとりひとりを深く理解する。				
		部活動をはじめ、全ての生徒活動を昨年度以上に活発化し、ルール・マナーの習得、自主性の育成、リーダーシップの育成、達成感による自己実現や自尊感情の醸成を図る。			・生徒一人ひとりが、ホームルーム活動・クラブ活動・生徒会活動・学校行事等に主体的に参加できるようにする。 ・ホームルームの活動を活発にし、豊かな校風を創造する。				
		健康で生き生きと生活するために、望ましい食習慣を身につけ、自己管理能力を育てる。			・自分の健康は自分で守るという自己管理能力を育成する。 ・家庭・地域と連携して食育の推進を図る。				
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	教材を精選し、基礎・基本事項の徹底をはかる。	生徒個々の進度に合わせて、基礎的・基本的な事項が修得できるように工夫する。漢字の読み書き、計算能力の向上を図る。	年度末のアンケートにより、「チャレンジタイム」の取り組みによって学習意欲が高まったとする生徒が60%以上となることを目指す。	C	休業中に行った漢字検定の欠席が例年以上に多かった。	C	実習教科の中で、基本から取り組む姿勢を身につけさせる事ができた。また出来上がった作品を展示したり、コンテストに出品する事で自信を付けるきっかけとなった。	自ら考え、発想する力が付くよう、見て感じることでできる視聴覚教材も使用したい。また、校内に留まらず、校外に向けての発信をしていきたい。	基礎学力を十分身につけさせて欲しい。また、実習では収穫や製作の喜びを実感している生徒が90%に迫っていることを踏まえて、山添分校の特色であるいろいろな体験学習を実施し、就職に繋がるようにして欲しい。
	体験学習をととして生徒に自主的に活動できる指導の充実	農業科や家政科の授業における実習授業の工夫	アンケートにより「農業科や家庭の授業に進んで実習に取り組んだ」とする生徒が80%以上になることを目指す。	C	授業に対しての遅刻や欠課、途中退出も多く見られる。また授業への協力を得られない状況もあった。	B	実習で十分な知識や技術力を身につけ、検定に合格できた者がいる反面、不十分な状態で終わってしまった者もいるため、更に基礎学力と技術指導を向上させたい。	学んだ事の復習ができるよう、家庭での課題を作り、学習時間の確保を計画的に行いたい。	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	各HRで服装・頭髪等のルールを守らせるなどの指導を徹底し、欠席や遅刻の防止に努める。	アンケートにより「服装や頭髪の指導を受けたことがない」とする生徒が80%以上になることを目指す。	C	遅刻欠席をする生徒は限定されており全体的に減少傾向にある。各HRで指導しているが守れている生徒は約60%であり徹底するまでには行かない。	C	遅刻欠席については学年末調査が近づくにつれ減少した。服装に関しては各HRの指導によりやや改善は見られたものの9月と同様に5割ほどしか改善されていない。	中学時代の怠惰な生活が抜けない生徒等服装や遅刻欠席に関わらず全体的に規範意識の向上をしていかなければ行けない。粘り強く生徒に働きかける等年間通じて継続して指導をしていきたい。	分校の特色の一つである4年時の課題研究で、働く意義をよく身につけていると思う。また、山添むらまつりへの参加で村民への対応等直接人とふれあうことでの生徒指導が村民にわかってよかった。
	ボランティア精神の醸成	生徒会活動を中心に農業クラブ、家庭クラブと連携し、生徒一人一人のボランティア意識を向上させ、自主的に活動を行えるようにする。	年度末のアンケートにより、ボランティア活動に積極的に参加したとする生徒が85%以上になることを目指す。	B	生徒会活動としてクリーンキャンペーンを行っているが、欠席無く積極的にゴミ拾い等が来ている。	B	生徒会活動としてのクリーンキャンペーンを継続的に行った。	規範意識に重なるところがあるが、生徒会活動だけでなく個々の生徒が通学路だけでなく教室を綺麗にしていけるように継続的に指導をしていきたい。	
進路指導	インターンシップの充実	4年生では週3日の産業現場実習を行い、職場の厳しさや、仕事への取り組み方などを学び、卒業後の生徒の職場の定着を促す。	年度末の実習事業所に対するアンケートで、一人前の労働力が認められるという回答が20%以上になることを目指す。	B	課題研究の説明会や実際に実習を行ったときに出た課題をもとに、仕事に対する心構えや意識付けを指導している。	A	数名ではあるが、課題研究先を就職につなげることができた。年間を通して仕事に対する姿勢や態度、考え方などを、こんこんと指導した。	生徒が無断で欠席していることが後になって分かることがあったので、企業と細かく連絡を取り合う必要があると感じた。	4年生が各種の事業所において職場実習している。その様子がうかがえた。この進路指導の充実を今後もしっかり継続して欲しい。また、次年度以降も受け入れを願えるよう、日頃の生活指導も更に徹底して欲しい。
	資格取得の促進	専門教科や学校裁量の時間を通して、漢字能力検定、フォークリフト、食物調理等の資格取得を促進する。	資格取得希望者のうち、資格を取得できた生徒が80%以上になることを目指す。	B	今年度はフォークリフトの資格を取得する機会がなくなる事ができなかった。	C	希望する資格取得を果たした生徒は28%。どちらかと言えば、目標に近づいたとする者が24%。3・4年生で漢検を受けた者は2名であった。	資格受検が、力をはかるものではなくて向上の手段であることを理解させる必要があると思われる。フォークリフトについては、出張授業をしてくれる教習業者と交渉する必要がある。	
人権・特別支援教育	人権教育の充実	人権教育推進プランを踏まえたHRや各種学習会を実施する。	人権に関する講演会や学習会などを1年に2回以上実施する。	B	人権平和学習会では、『火垂るの墓』で戦後の混乱期の中、兄と幼い妹がいやがらせ(差別)や社会の厳しさを受けながらも必死に生きる様子を学習した。	B	8月に人権平和学習会、12月には人権作文発表会を実施した。人権作文発表会では、いじめや障害を持った方や高齢者の方への虐待など人権問題について感じたこと、考えていることを発表することができた。	今後も継続していくとともに、HRの時間でも人権問題に関する学習を今まで以上に増やしていく必要がある。	学校生活において、特別に支援を必要とする生徒にも細かな配慮がされていることが保護者にも伝わっている。今後も更に専門機関等との連携を含め、個別指導の充実と、卒業後に向けた取り組みを今後も継続して欲しい。
	特別支援教育の充実	山添村教育委員会のスクールカウンセラーの活用	・スクールカウンセラーの教育相談等の研修を1年に2回以上実施する。 ・連携を密にし、対象生徒の状況を把握する。	B	スクールカウンセラーの活用においては、1年生全員に実施するなど活用できている。また、盲学校を訪れての情報交換も行った。	A	スクールカウンセラーの活用については、必要生徒も含めて1年生全員を対象として行った。カウンセラーとの連携もできており、1年生の生徒間の繋がり等を把握することができた。また、今後の弱視障害の生徒の動向について、担任及び進路、特別支援コーディネーターの3名が盲学校を訪れて、情報交換を行うことができた。	スクールカウンセラーについては、その必要性から日数及び時間的にも増加させる必要があると考える。今後も特別支援校をセンター的役割として大いに活用していく方向で実践する。	
健康・安全管理	食育の充実	食生活診断調査等に基づく全体指導や個別指導を通して自己管理能力を育成し、望ましい食習慣を確立させる。	年度末のアンケート等により、毎日朝食を摂取する生徒が80%以上であることを目指す。	B	アンケートの結果、朝食を摂る生徒が80%以上となった。しかし朝食の食事の内容が偏っているため保健授業等で啓発していく。	B	保健授業や保健だより、家政科の授業等で朝食の重要性や内容に関する啓発が来ているが、朝食の内容に関する事については詳細を把握することが出来ない。	家政科授業や保健授業等で画像や映像等の視聴覚教材を利用し指導をしていく。また、朝食の内容に関しては来年度、アンケートを実施して把握し、今後の授業に活かして行きたい。	夏の料理講習会で、著名な専門家を招き、村民と生徒と一緒に料理を作ったり、地域の材料を使った「旬のごちそういただきます」のレシピなど大変役に立っている。今後もこのような活動を実施して欲しい。
	安全教育の充実	教科指導や全校集会を通して、災害や危険から身を守るための危機回避能力を身に付けさせる。	年に1回交通安全講習会を開催し、避難訓練を年に1回以上行う。	B	計画通り実施出来ている。バイク通学生徒には、安全意識をより徹底した指導を実施している。	A	交通安全講習会や避難訓練について計画的に出来ているが、長期休業の前に行事が実施されていないため、注意喚起が不十分のまま長期休業に入ることが心配である。	交通安全講習会の実施日については、事故が多くなる長期休業中に入る前に出来るだけ実施出来るように検討をしたい。	
農業科	農業クラブ活動の活性化	近畿大会をめざし、他校農業クラブとの連絡を密にし、協調を高め相互の親睦を深めるとともに、日々の研究活動を推進する。	各種大会に参加し、入賞者の総計が5名以上となることを目指す。	B	リーダー研修会では学校紹介にダンスを取り入れ、他校から好評を得た。意見発表では、上位入賞はできなかったが、完成度の高い発表ができた。	B	シカの皮の蘇し作業を実際に行ってみたり、巨大クリスマスリースや正月リース、門松の製作などに取り組んだ。競技会すべてに出場することは厳しい状態だったが可能な限り出場した。	各種競技会で上位入賞できるように取り組みたい。	農業科、家政科の専門性を上手く生かされている。山添分校をより広くアピールをされて、花いっぱい運動や旬のごちそうなど山添村での山添分校のアピールができています。出来れば山添村外へも広く広報されたい。
	地域交流活動	地域社会と連携するなかで、ボランティア・環境問題に進んで取り組み、活動に新しい魅力を創造する。	地域との交流活動を年2回以上実施する。	B	春と秋の2回、地域に野菜苗の販売を実施し、好評を得ている。また各大字に草花の配布を実施した。	A	地域への花配布について、配布した花の種類を殖やすことができ好評であった。	引き続き「花いっぱい運動」に協力していく。また野菜苗の販売も地域の要望に応えることが出来るよう取り組みたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	
家政科	家庭実習の充実	調理実習、被服製作、ホームスパン等の実習の時間を充実し、製作することの喜びを体感させる。	年度末のアンケートにより製作することの喜びを実感できたとする生徒が80%以上であることを目指す。	B	ふれあい祭りや産業フェアに作品展示をすることができた。また、クリエイティブコンテストの優秀作品にもミネート中である。	A	産業フェアでは家政科の研究発表を行い、研究論文の表彰を受けた。クリエイティブコンテストに於いても優秀作品として展示していただいた。実習では作品に対して丁寧に取り組み、愛情を持って仕上げることができた。	学校で取り組んでいることを展示やコンテストへの応募などで外部へ情報発信することを続けていきたい。また成果として残ったものが自分の自信に繋がるような実習にしていきたい。	「旬のごちそういただきます」、夏の料理講習会、保育園訪問、実習で作ったケーキを老人施設への配布等多方面への活動について、少ない人数でも実施されることを望む。今後検定など資格習得を更に進めていきたい。
	職業人としての専門性を高める	授業以外にも補習や家庭学習を通して、調理や縫製の知識を高め、技術力を身につける計画を立て実行する。	各種検定において、3級合格者100%を目指す。また、県外実習の食生活分野における成果を地域の方々に発表する機会を作る。	C	調理検定では2級を合格する者もいたが、同じ級を何回も受験している者も多く、苦手分野の克服のため練習を多くさせている。	B	各種検定受験の結果、知識や技術力を高めることができた。しかし全員合格するまでには至らなかった。個々の能力に合わせた学習の在り方を考えたい。料理講習会やマナー講習会で得たことが進路選択にも役立った。	補習などで技術力を高めることができています。知識面での理解に時間がかかるため、普段から家庭で学習する習慣を身に付け、効果が上がるような指導を心掛けたい。	
学校事務	生徒募集活動の充実	本校への受検希望者増加を図るため、三重県伊賀市、名張市及び奈良県内の中学校を訪問し、本校教育のPRを行うなど積極的な募集活動に努める。	昨年度目指した20名の入学志願者数を本年度も目標とする。	C	三重県の中学校での生徒・保護者対象の説明会や伊賀市主催の教員対象の説明会では十分に説明できたが、奈良県の中学校の訪問は後期行う予定である。	B	伊賀・名張地区の全ての中学校への訪問ができた。また、ホームページ上の学校紹介についても月に数回の更新を行った。しかし奈良県側の訪問は少なかった。	来年度は、本年度以上にホームページの更新、新聞記事の掲載に向けて努力し、山添分校の広報を充実したい。	生徒募集について、伊賀市、名張市や、村と協力応力しながら生徒が多く入学してくれている。名張駅行きのバスが出るように各関係機関との話し合いを続けてバスが運行されるように努力して欲しい。
	発送文書のデジタル化保存	発送文書や起案等のデジタル化で校務の効率化を行う。	文書をPDFファイルで保存し、簡単に検索できるようにする。	C	起案文書のリスト整理やこれまでの文集等をPDFファイルとして検索できるようにした。	B	文書の整理ができ、電子データに保存が進んできた。これらのデータを活用することで、校務での引継ぎもスムーズに行える。	今後、廃棄処分の文書整理ができていないので、確実に廃棄し、引き続き文書整理を行っていきたい。	
第1学年	集団の中で自己の位置を確立させる。	なかまづくりと集団生活を送るうえでのルール、マナーを身につける。	あいさつや礼儀・基本的なマナーを全員が守れるようにする。 毎朝の9マス計算で基礎学力向上を目指す。	C	4月頃と比べ基本的なマナーや礼儀は意識して出来るようになったが、一部の生徒により指導等が入って行かない現状がある。	C	年度途中で進路変更した仲間を見ながら生徒自身が自己を見つめ直し、進級したらこうなりたい等先輩としてどうあるべきかを考えることが出来ている。しかし、継続して考え、行動出来るまでは至っていない。	今後も継続的に規範意識に関する指導をしていくとともに、生徒自身が中学時代までの生活を見直し改善していくためにHR等を使って改めて考えさせる時間を作りたい。	分校のアピール部分は就職に繋がるきめ細かな進路指導にある。今後もそのことが定着するようつとめていきたい。 神社や村内の空き地などに立ち入らないようにして欲しい。
		基本的な生活習慣を身につけると共に、実習等に耐え得る体力を身につける。	遅刻・欠席の回数を年間5日以内になることを目指す。 クラブ活動に全員が積極的に参加することにより体力の向上に努める。	B	体を動かす事が好きな生徒が多いため校内のクラブ活動に参加する生徒が増えた。	B	遅刻欠席については、欠席はほぼ無くなったものの授業間の遅刻が依然として多い。また運動に興味関心があるものの本校の部活動に興味がないため参加率は低いままである。	学校内外に問わず運動をする生徒が増えた。学校内での活動が増えるように取り組みたい。	
第2学年	集団の中で自己の能力を伸長させる。	学習習慣を身につけ、意欲的に学ぶ態度を育成する。スピーチ等の言語活動を充実させ、思考力、表現力を身につける。	毎朝9マス計算、辞書引き学習を実施する。 HRを使って自分の意見をまとめて発表できるようにする。	C	基礎学力の向上が見られる生徒がいる反面、悪ふざけや甘えにより怠惰な一面を見せる生徒がまだ数人おり、指導が必要である。	B	9マス計算で正答率は86%に達した。課題としてはいつも平均点以下の生徒に対する支援の在り方を構築することである。	もっと繰り返し学習の機会を設けていきたい。	村内で誰にでも挨拶ができる生徒の指導を続けて欲しい。 根気強く指導されて、全員就職が決まり立派に卒業された。山添分校の教職員の努力があったと感じた。更に推し進めた指導により、分校を選択して良かったといえる生徒を育てていきたい。
		社会人として、基本的な生活習慣を身につける。	あいさつをしっかりする。 遅刻欠席の回数を年間5回以内にする。 社会人としての基本的な礼儀やマナーを身に付けさせる。	C	言葉遣い、挨拶、マナーなどの基本的な生活習慣がまだまだ身につけていないので指導が必要である。	B	出席率は毎月95パーセントを超えていた。後期は欠席のベースが改善されていた。後期になって特定の生徒に朝の数分の遅刻が目立って増えたことがある。自らの進路に対する不安を抱えたことであった。いろんな機会を利用して個別面談をより多く実施する。	学校で指導するのみならず、保護者の方とも連携をとり、遅刻をなくすように指導していきたい。基本的な挨拶、礼儀等についても教員が率先して見本をみせる。	
第3学年	各自の能力を結集し、集団で物事を解決する態度を育成する。	日々の教室での活動や県外実習、ふれあい祭り等の学校行事を通して仲間意識を育て、互いに協力して取り組む姿勢を養う。	年度末のアンケートにより協調的な学級活動ができたとする生徒が70%以上であることをめざす。	B	県外実習では、宮崎農業大学校での集団宿泊活動で協力しあった農業体験活動ができた。	C	宮崎農業大学校での集団農業体験や収穫祭では協力し合った活動ができた。一方でふれあい祭りでは、大方の生徒がそれぞれが何かをしたが、一部の生徒に頼るという面もあった。	一部の生徒の中には、自分のノルマさえ達成できればそれでいいという生徒もいる。それだけでなくプラスアルファで何か貢献しようという意識が自然と芽生えるような心や姿勢をHR等を通して育てていく必要がある。	次年度4年生になり、半年後には就職活動も始まっている。HRや話し合いを通して、まずは就きたい仕事(職業観)を定めていき、卒業後、どのような生活を送っていくのか人生観を深めさせていきたい。
		一般常識を広め、職業観、人生観を深める。	年度末のアンケートにより明確な生活目標が確定できたとする生徒が70%以上であることを目指す。	B	次年度の課題研究先(職場実習先)を探すことを通じて生徒達が、自分が将来つきたい職業について考えを深めている途中である。	C	次年度の課題研究先(職場実習先)を決めていく過程において、ある程度自分の就きたい仕事(職業観)というものが見えてきた生徒がいる中で、まだはっきりとした職業観が定まっておらず、生活目標が確立していない生徒もいる。		
第4学年	得た能力を発揮し進路希望の実現など自己を確立させる。	学級担任を中心に生徒及び保護者の願いを把握し、進路指導部との連携のもと進路先の開拓に努める。	卒業までに進路先が100%内定していることを目指す。	B	本人・保護者と連絡を密にし、就職の情報も提供し積極的に取り組んでいる。	A	就職応募前見学・体験などを積極的に実施し、4年生8名全員の進路を決定することができた。	就職前見学・体験は非常に有効だと感じた。	個々の働く意識をしっかりと持って、実習場所を選択しないと、途中で投げ出したり、変更しなければならなくなる可能性が高い。事前指導で意識を高めることが重要だと感じた。
		産業現場実習において、職場の厳しさや仕事への取り組みを学ぶ。また社会で自立していく力を身につけ、主体的に進路を選択する能力を養う。	年度末アンケートにより、職場体験実習の成果が満足であった生徒が90%以上であることを目指す。	B	職場体験を通して明らかにされた課題に対して、個人に応じた指導ができています。	A	個々の課題を、それぞれに、面談などを行い個別に指導することができた。また学年末にはしっかりした発表会で、自分の成果の発表と下級生に対しての、メッセージを送ることができた。		

【自己評価の判断基準】
A: 十分である(よくできた)【目標値の達成率80%以上を目安とし総合的に判断する。】
B: ほぼ十分である(できた)【目標値の達成率65%～79%を目安とし総合的に判断する。】
C: あまり十分でない(あまりできなかった)【目標値の達成率50%～64%を目安とし総合的に判断する。】
D: 改善を要する(できなかった)【目標値の達成率50%未満を目安とし総合的に判断する。】